

指導者確保の現状と課題

- ・令和9年度の新しい学校部活動のスタート時に必要な指導者数について種目別に整理したもの
- ・見込み数ではあるが、種目により指導者数に大きな差があるため、子どものニーズに答えるために必要な手立てを検討する必要がある

運動						
No.	種目	現行設置部数 (A)	400部試算 (B) = (A) × 0.7	必要指導者数 (C) = (B) × 4	見込み指導者数 ※別添1(次ページ)	過不足数
1	バレーボール	51部	36部	143人	131人	▲ 12人
2	バスケットボール	72部	50部	202人	159人	▲ 43人
3	サッカー	39部	27部	109人	185人	76人
4	ハンドボール	8部	6部	22人	40人	18人
5	ソフトテニス	54部	38部	151人	100人	▲ 51人
6	バドミントン	43部	30部	120人	96人	▲ 24人
7	卓球	45部	32部	126人	55人	▲ 71人
8	軟式野球	39部	27部	109人	212人	103人
9	ソフトボール	5部	4部	14人	42人	28人
10	陸上競技	28部	20部	78人	93人	15人
11	体操競技	1部	1部	3人	8人	5人
12	柔道	9部	6部	25人	19人	▲ 6人
13	剣道	33部	23部	92人	67人	▲ 25人
14	水泳	26部	18部	73人	71人	▲ 2人
15	ラグビー	5部	4部	14人	22人	8人
16	テニス	3部	2部	8人	30人	22人
17	空手道	0部	0部	0人	17人	17人
18	弓道	2部	1部	6人	28人	22人
合計		463部	324部	1,296人	1,375人	79人

文化						
1	吹奏楽	32部	22部	90人	99人	9人
2	美術	29部	20部	81人	29人	▲ 52人
3	放送	19部	13部	53人	29人	▲ 24人
4	合唱	10部	7部	28人	48人	20人
5	茶道・華道	4部	3部	11人	25人	14人
6	科学	3部	2部	8人	24人	16人
7	音楽	3部	2部	8人	66人	58人
8	書道	1部	1部	3人	41人	38人
9	アートクラブ	1部	1部	3人	15人	12人
10	日本伝統文化	1部	1部	3人	18人	15人
11	太鼓	1部	1部	3人	7人	4人
12	コンピューター (パソコン)	1部	1部	3人	28人	25人
13	技術	1部	1部	3人	16人	13人
14	JRC	2部	1部	6人	10人	4人
合計		108部	76部	302人	455人	153人
総合計		571部	400部	1,599人	1,830人	

※見込み指導者数内訳（種目の複数選択も可にしているため、①～④は延べ人数でカウント）

運動	①～④は、R5. 5～R6. 7に実施した各アンケート調査の結果より引用					
種目	①教職員	②市職員	③大学生	④地域住民	⑤部活動指導員	⑥外部指導者
バレーボール	65人	28人	21人	3人	1人	13人
バスケットボール	97人	19人	17人	6人	2人	18人
サッカー	111人	38人	23人	2人	1人	10人
ハンドボール	27人	9人	2人	1人	0人	1人
ソフトテニス	60人	11人	15人	2人	1人	11人
バドミントン	60人	16人	14人	0人	1人	5人
卓球	30人	5人	7人	1人	3人	9人
軟式野球	102人	83人	13人	8人	1人	5人
ソフトボール	20人	16人	5人	0人	0人	1人
陸上競技	50人	19人	18人	2人	0人	4人
体操競技	1人	2人	4人	1人	0人	0人
柔道	8人	4人	2人	1人	1人	3人
剣道	42人	14人	4人	3人	0人	4人
水泳	34人	11人	16人	6人	0人	4人
ラグビー	12人	7人	2人	1人	0人	0人
テニス	14人	7人	5人	2人	0人	2人
空手道	8人	6人	3人	0人	0人	0人
弓道	12人	3人	12人	0人	0人	1人
合計	753人	298人	183人	39人	11人	91人

文化						
吹奏楽	54人	5人	31人	8人	0人	1人
美術	18人	4人	4人	3人	0人	0人
放送	21人	2人	5人	1人	0人	0人
合唱	31人	1人	14人	2人	0人	0人
茶道・華道	15人	1人	2人	3人	0人	4人
科学	12人	1人	11人	0人	0人	0人
音楽	39人	6人	13人	8人	0人	0人
書道	25人	2人	13人	1人	0人	0人
アートクラブ	10人	1人	2人	2人	0人	0人
日本伝統文化	11人	0人	2人	2人	0人	3人
太鼓	2人	3人	1人	0人	0人	1人
コンピューター（パソコン）	12人	3人	10人	3人	0人	0人
技術	6人	1人	8人	1人	0人	0人
JRC	5人	1人	3人	1人	0人	0人
合計	261人	31人	119人	35人	0人	9人
総合計	1,014人	329人	302人	74人	11人	100人

各アンケート結果における設置部活動外の種目について（チャレンジクラブの対象となりうる）

○現在、市内部活動に設置のない種目についての指導希望種目及び指導者数

種目	市職員	大学生	地域住民	合計
硬式野球	25人	9人	4人	38人
水球	3人	1人	1人	5人
相撲	2人	0人	0人	2人
演劇	4人	4人	0人	8人
写真	3人	1人	1人	5人
ピアノ	1人	10人	2人	13人
ダンス	1人	3人	3人	7人
英語・英会話	1人	14人	3人	18人
バレエ	0人	2人	0人	2人
トランポリン	0人	2人	2人	4人

○「その他」の記述内容

ゴルフ	考古学、文化財	クライミング	キックボクシング
カメラ	馬術	少林寺拳法	スケート
写真芸術	将棋	フラダンス	ヨガ
英語	スキー	Squash	格闘技
見守り	漫画	フェンシング	野外活動等
eスポーツ	歴史	セーリング	MTB
朗読、アナウンス	ボート	アイスホッケー	ボクシング
簡単な創作活動全般（お手軽ハンドメイド、塗り絵、折り紙、ペーパーフラワー、紙工作等）			

R6 関係機関への人材確保のお願いについて

NO.	グループ	訪問先	訪問日時
1	スポーツ分野	総合型地域スポーツクラブ事務局	5月16日
2		スポーツ協会事務局	4月25日
3		NPO法人 ひとづくりJAPANネットワーク	11月18日
4	文化分野	くまもと市文化協会	8月19日
5		熊本県文化協会	7月24日
6		熊本県吹奏楽連盟	7月19日
7		熊本県合唱連盟	7月24日
8	大学関連	大学コンソーシアム熊本	7月9日
9		熊本大学	8月26日
10		熊本県立大学	10月18日
11		熊本学園大学	7月22日
12		九州ルーテル学院大	9月20日
13		崇城大学	7月25日
14		九州看護福祉大学	8月27日
15		熊本保健科学大学	7月22日
16		尚絅大学	9月19日
17		東海大学	7月23日
18		平成音楽大学	9月27日
19	スポーツ・文化	一般財団法人 熊本市文化スポーツ財団	5月2日
20	民間企業等	株式会社 MYプロデュース	12月9日

関係機関訪問時による人材確保についての主な意見

スポーツ分野

○肯定的な意見

- ・一般競技者に協会を通じてお願いする、または市役所のソフトテニス部などの部活動に求める手がある。
- ・学校部活動の趣旨と子どもへの理解が十分な人が、自己研鑽して指導に当たることが望ましいと思う。
- ・ラグビーは熱がある人が多い。声をかければ指導者に名乗り出る人はいると思われる。人吉に新しいチームが結成された。ワールドカップの熱を冷まさないように、競技人口を増やそうと努力されている人もいる。

○否定的な意見

- ・競技者が指導者になれるとは限らない。中学生ならではの指導が必要な時もある。指導者の質と量の両方の面で、指導者の確保に関しては非常に厳しいと予想する。
- ・協会、連盟に指導者の依頼は厳しいだろうと思われる。頭に浮かぶ適任と思われる方々の多くがクラブチームの指導者になっている。
- ・中学生の大会については各競技団体の少年部、中学校の教員の多くがかかわって運営されている状態。指導者の確保とともに大会運営スタッフについても今後の課題ではないか。

文化分野

○肯定的な意見

- ・本協会は、懇話会（個人）1,200人、協会（団体）250団体の登録状況である。内容が美術、書道、音楽関係、放送、日本舞踊、お茶、生け花など、多岐にわたっているため、必要な部分の団体は紹介できると思う。中には助成金を出している団体もあり、協力体制は取れると思う。また、登録団体や個人の半数以上が熊本市を拠点（在住）のため、協力はしやすいだろう。
- ・日舞やフラダンスなど、不登校の生徒の立ち直りの機会にもなっている。
- ・募集を周知するパンフレット（ポスター）をいただければ、連盟のいろんな機会に周知し、指導者を派遣する働きかけができる。具体的な内容が分かったパンフレット（ポスター）が良い。

○否定的な意見

- ・一般社会人ならば、自身の経験から指導しがちである。指導の在り方等を研修し、適性を把握して指導者として派遣するような制度をつくってほしい。
- ・指導者はだれでもいいわけではない。例えば、自衛官0Bは指導の口調が強いため問題になったことがある
- ・熊本県は、文化協会理事会や県内市町村の連盟理事会などに説明に来られて指導者登録用紙を配布している。

大学関連

○肯定的な意見

- ・保健医療系の大学のため、講義や実習等が密にあり、ゆとりのある学生が少ないと思う。ただし、リハビリテーション学科に理学療法学専攻スポーツリハビリテーションコースを持っていて、県スポーツ振興事業団や県スポーツ協会と連携した取り組みを行っているので、そういった方面から支援することができるかもしれない。
- ・体育系のサークル活動が活発なので、大会が終了した 4 年生以外体育系サークルの学生は時間がない可能性がある。講義終了時間は 17 時 50 分である。高校時代まで経験していて、大学では続けていない学生もいると思うので、募集等のお手伝いは協力したい。
- ・学生も部活動の指導にかかわると、それを就職活動に有利に働きそうであり、教員希望の学生にとっては、それがインセンティブになると採用側が決めていただければもっとありがたい。
- ・学生が部活の副顧問として支援してもらうには、学生のスケジュールと交通手段の 2 つがカギになる。現在も学校に関わっている学生もいることから、学生への周知を進めていけば、協力できる人材はいると思われる。
- ・大学内の強化クラブは、柔道、体操、バスケットボール、野球、サッカー、ゴルフなどがあり、そのほかドローンやロボット、プログラミングなどもチャレンジクラブに協力できると思う。

○否定的な意見

- ・指導方法が変わるとこどもが混乱する、指導者の力量の差は特に音楽関係では顕著にみられる。
- ・指導は誰でもよいわけではないと思う。学生の責任を心配する。慎重な基準を持って選考してもらいたい。最近は大学生になっても、保護者に対して説明しなければならないような事例がある。
- ・大学生は未熟な部分が多く、教育的な視点としては難しいのではないか。教育学部の学生であればいいが、それ以外では遊び感覚としてくるのではないか。時給 1000 円であれば、学生も来るとは思うが、質の高い指導者が来るかという難しいのではないか。
- ・研修体制を充実させないといけない。運動部活動の場合、勝利至上主義によらない楽しさや達成感を感じるようなものが、部活動のめざす姿。楽しむことをメインとした部活動もあってもよい。
- ・医学系の学校は 3, 4 年時に実習がある。4 年時は実習 + 論文 + 国家試験がある。アスレチックトレーナーの学科など理学療法の学科と同じで部活に貢献できることがあるが、1, 2 年生は経験値が浅く大学の学びを生かせないと思われる。